

12. 骨シンチからみた外傷発生状況の推定

奥山 信一 三品 均 (東北労災・放)

骨シンチグラフィは、全身サーベイが容易で、occult fracture も検出できるので、骨折の部位診断のみならず、それらを総括して、外傷発生状況の推定ができる。このことを、症例提示を通じて、あきらかにした、骨シンチグラフィは、前後の変化、例えば、spondylolisthesis や、osteoporosis, detailed structural information を得難いので、骨レ線の情報を加味すれば、一層正確な推定が可能と思われる。

13. 骨シンチグラム用核種の軟部腫瘍異常集積例

早坂 和正 三橋 英夫 浅野 章
広瀬仁一郎 天羽 一夫 (旭医大・放)

^{99m}Tc -MDP による骨シンチグラフィーは骨病変の早期検索に有用だが、骨格系とは関係なく、軟部腫瘍に異常集積する症例を経験したので報告する。対象は4例で、肺癌の腎転移、直腸癌の肝転移、脂肪肉腫の再発例、および malignant fibrous histiocytoma であった。

異常集積の原因としては、腫瘍部の局所の血流増加によると考えられるもの、および壊死巣、特に壊死部の calcium deposit による可能性が推定された。

14. ^{201}Tl 甲状腺 delayed scintigraphy の検討久保田昌宏 大久保 整 津田 隆俊
高橋貞一郎 森田 和夫 (札幌医大・放)

組織診断の確定した甲状腺腫瘍15例中 ^{201}Tl 静注10分後の early scintigraphy で腫瘍に ^{201}Tl が取り込まれたのは34例であった。これらのうち甲状腺癌18例、甲状腺悪性リンパ腫1例中13例(68%)が ^{201}Tl 静注2時間後の delayed scintigraphy で腫瘍に ^{201}Tl が残存し、甲状腺腺腫15例中9例(60%)の腫瘍の ^{201}Tl の取り込みが消失した。結局、delayed scintigraphy による悪性、良性の診断率は65%(22/34)であった。

甲状腺癌6例、甲状腺腺腫2例、甲状腺嚢胞3例は early scintigraphy で腫瘍に ^{201}Tl が取り込まれなかった。

組織診断の確定した慢性甲状腺炎16例中15例に ^{123}I 甲状腺 scintigraphy で甲状腺に ^{123}I の取り込み低下部が

あり、 ^{201}Tl early scintigraphy では15例全例に ^{201}Tl の取り込み低下部に ^{201}Tl の取り込みがあった。さらに delayed scintigraphy では16例全例に甲状腺全体に ^{201}Tl の残存があり、慢性甲状腺炎の診断に ^{102}Tl delayed scintigraphy は有要であった。

15. 心臓弁膜症における血栓形成傾向にかんする核医学的検討

油井 徳雄 室井 秀一 松田 信
大和田憲司 待井 一男 内田 立身
刈米 重夫 (福島医大・一内)
麻喜 恒雄 (仙台日赤病院・二内)

心臓弁膜症は動脈塞栓症をしばしば合併することが知られている。かかる心臓弁膜症において 1) ^{51}Cr および ^{111}In -oxine 標識血小板による血小板寿命測定とシンチレーションカメラによる心腔内血栓の検索、2) ^{125}I 標識フィブリノーゲンによるフィブリノーゲン寿命測定および 3) 血漿中の β -thromboglobulin 値の測定を行った。その結果、各種弁膜症群のうち僧帽弁狭窄症群において血小板およびフィブリノーゲンの寿命の短縮、フィブリノーゲンの turn-over の亢進を認め、さらに血栓を有する例はその傾向がより著明であった。以上より僧帽弁狭窄症群は他の弁膜症群に比し、血栓形成傾向がより顕著であると思われた。 ^{111}In -oxine 標識血小板シンチグラフィーにより心腔内血栓の描出が可能であり、きわめて有用な検査法であると思われた。 β -thromboglobulin の測定の結果、血栓を有する僧帽弁狭窄症例でやや高値を示し、それぞれ65, 60, 57および36 ng/ml (正常値24±12 ng/ml, mean±1 S.D., N=52) であった。

16. 左室機能解析に及ぼす Background Subtraction の影響

桂川 茂彦 高橋 恒男 柳澤 融
(岩手医大・放)

^{99m}Tc を用いた心 RI アンジオグラフィは、駆出分画(E.F.)など心室機能解析によく利用されている。しかし E.F. の計算には多くの誤差要因が存在し、とくに Background (B.G.) の算出方法は E.F. の計算に直接影響を及ぼす。従来 B.G. の算出には、多少とも operator の意志が介入し、得られた E.F. の値は再現性が悪かった。そ